

Ⅰ 「授業スタンダードの取組みについて」 研究部長:辰己祐幸

要旨 令和4(2021)年度から3年間、研究部は、和泉支援授業スタンダードを作成し、授業スタンダードを校内で共有、浸透させていくため、さらに地域に向けて発信していくために取り組んできた。その授業スタンダードを中心に、研究部が3年間で取り組んできた内容の紹介とアンケート結果からの総括を行う。なお令和6年度研究協議の内容である、教科ごとに本校教員が授業スタンダードの視点で取り組んでいる内容は『和泉支援授業スタンダード実践例集』としてまとめている。具体的な実践例についてはそちらを参照されたい。

●令和4(2022)年度の取組み

1. 「授業スタンダード」づくりのスタート
令和3年度まで和泉支援学校研究部ではキャリアプランニング・マトリックスの改訂に取り組んできた。その詳細については、令和3年度実践報告集に掲載されている。

令和3年度末、学校長から令和4年度以降、研究部は新たに和泉支援学校の授業スタンダード策定に取り組むよう指示があった。

「授業スタンダード」と検索すれば都道府県や市町村の自治体単位、あるいは支援学校を含めた各学校ごとの様々な授業スタンダードが検索結果に並ぶ。大阪府でも、平成 24 年に大阪府教育センターより『大阪の授業STANDARD』が出されている。一口に授業スタンダードと言ってもその内容は様々である。

本校での授業スタンダード策定について、当時の竹内校長からは「白紙から研究部で思うように自由につくってもらってかまわない」と言われていた。具体的な授業スタンダード像ははっきりしないままの令和4年度新たな研究部のスタートとなった。

2. 主任を含めた新しい研究部体制と学校経営計画

令和4年度から校務分掌改革の一環として研究部を核に据えるため、授業力向上主任・人材育成主任・GIGA 主任の3主任が新設され、研究部に所属することとなっていた。新しい研究部体制である。

令和4年度の学校経営計画の中期目標には、研究部に関連する以下の内容が示されて

いた。

1 学習指導要領の確実な実施

教員の専門性の向上を図り、教材教具の工夫・活用の促進と、児童・生徒一人ひとりの障がいの特性や発達状況に応じた教育を実践するとともに、大学と連携した研究を一層推進し、「確かな学力」の育成と授業改善に取り組む。

(1) 児童・生徒の三つの資質・能力を明確にし、それを各教科等の指導のねらいとして設定した上で、授業等を行う。その際、「主体的・対話的で深い学び」の実現や「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、指導と評価の一体化の観点から、PDCA サイクルによる授業改善に努める。

(2) 1人1台端末を効果的に活用し、児童・生徒の学習活動を一層充実させるため、策定した「児童生徒1人1台端末活用プラン」に基づき、外部人材等を効果的に活用するとともに、計画的かつ組織的に取り組む。

(3) 省略

*R4—各学部において教員相互の授業観察、研究授業を年間スケジュール化

R5—「和泉支援学校授業スタンダード」作成

R6—「和泉支援学校授業スタンダード」に基づいた授業実践と充実(外部専門家からの検証)

2 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実

障がいの有無にかかわらず、すべての児童・生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育の充実と社会参加に向けた生きる力の育成を図る。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 個々の生徒の希望と状況に基づく進路保障に向け、キャリアプランニング・マトリックスや教育課程の点検・改善に努め、高等部職業コースの充実や就労・社会参加につながるキャリア教育を一層推進した特色ある学校づくりをめざす

学校経営計画には、令和5年度の授業スタンダード策定やその先だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」や「観点別学習状況の評価」、「児童生徒1人1台端末活用プラン」、前年度改訂したキャリアプランニング・マトリックスについても記載されていた。

また令和2年度、3年度に引き続き3年連続

で、大阪府教育センターのパッケージ研修支援を受けることが決まっていた。

「主体的・対話的で深い学び」については、令和3年度の大阪府教育センターパッケージ研修支援にて授業改善の支援を受けていた。

ただ「観点別学習状況の評価」については、それまでパッケージ研修支援も含めて校内研修では実施していないものであった。そのため、「観点別学習状況の評価」について外部有識者による指導助言を受けてはどうかという竹内学校長からのアドバイスもあり、パッケージ研修支援全体会①で全教員向けに観点別学習状況の評価についての研修会を大阪府教育センターの小田村指導主事に依頼した。また外部有識者として本校学校運営協議会会長でもある大阪体育大学藤井教授にも研究部員向けに観点別学習状況の評価についての研修会を依頼した。

キャリアプランニング・マトリックスについては、授業づくりの際にキャリア教育の視点を再確認できるよう、公開授業や法定研修における指導案に掲載することとした。

3. 観点別学習状況の評価についての 研修

(1) 大阪府教育センターパッケージ研修支援
全体会(大阪府教育センター小田村指導
主事) R04/06/23

和泉支援学校全教員を対象に実施した。研修会では、育成すべき資質・能力と観点別学習状況の評価について、コンテンツベースからコンピテンシーベースへの学力観の転換や、育成すべき資質・能力を具体的な評価に落とし込むこと、感性や思いやりなどの学習の様子と主体的に学習に取り組む態度の違いや具体的な文言例、各評価で見取るべきポイントについて説明され、個人ワークを通して具体的な評価の内容を考えた。

全体会①においては、学習指導要領の内容をもとにして、育成すべき資質・能力と観点別学習状況の評価についての講義を行いました。育成すべき資質・能力は、これからの社会を生きる子どもに必要な資質・能力であり、学習目標の設定と学習評価に当たっては一面的なものにならないようにすることや、評価規準の設定に当たってはおおむね達成できた

と考えられる状況を具体的な子どもの姿として記述することの大切さについて講義しました。

また、全体会①の後半では、架空の授業をもとにして、授業改善を行うワークを実施し、一人ひとりの教員が授業改善に対する認識を高める取組みを行いました。※1

※1大阪府教育センターホームページ

「府立支援学校における組織的な取組みの支援」より引用

https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/development/shien/pdf/01_2022_izumi.pdf

(2) 研究部員対象 観点別評価研修会
(藤井教授) R04/06/22

研修会では資料として、①文部科学省『特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料』、②長崎県 令和元年度特別支援学校教務主任研修会資料『特別支援学校(知的障害)における各教科等の新しい評価の考え方』、③兵庫県立和田山特別支援学校『わとく地域支援センターだより令和3年度第2号』、④武富博文・増田謙太郎(2020)『新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工

夫』ジアース教育新社の4点を紹介された。

観点別学習状況の評価については以下のような観点でのアドバイスを受けた。

- ・1つの授業だけでなく、単元全体を通して子どもたちの変容を評価し、次の指導へ繋げていくのが「指導と評価の一体化である。
- ・アセスメントの時点で、3観点の目標と評価を把握しておく必要がある。
- ・縦に積み上げる子(5までのたし算→10までのたし算→繰り上がりのようにステップアップしていく)と、生活経験や興味関心などをもとに横に広げていく子がいる。特に重度の子どもたちは横に広げていく意識が大切で、横に広げていかないと縦には積みあがっていかない。
- ・ICカードにチャージされていればコンビニで買い物ができるといったように、今の時代に合わせた教科指導や生活指導をするなど生活の中につながら体験を大切にしてほしい。
- ・外側の『衣は3観点』になるが、中身は今まで和泉支援が大切にしてきたものと変わりはない。今までの取組みをベースにしたスタンダードをつくってほしい。

4. 観点別学習状況の評価とキャリアプランニング・マトリックスの視点を取り入れた指導略案新様式の作成

公開授業系の堤教諭を中心に、それまで校内教職員向けの公開授業と、外部公開授業にて作成されていた指導略案様式を再検討した。学校経営計画にある観点別学習状況の評価やPDCAサイクルによる授業改善を意識した上で指導略案を作成してもらうためである。

具体的には観点別学習状況の評価における目標と評価を視覚的にわかりやすいレイアウトに変更した。また裏面にキャリアプランニング・マトリックスを掲載し、その授業で意識している内容にチェックをつける形にした(※資料1_01「指導略案新様式」参照)。

指導略案新様式については、9月の高等部公開授業(内部教員対象)と授業づくりプロジェクトでの野見山教諭・辰己教諭の研究授業、2月の外部公開授業で活用した。

またICT活用を促進するため高等部公開授業では、指導案はGoogleドライブ上で共有し、研究協議の内容をドキュメントの共同編

4年度授業づくりプロジェクト指導案」を参照

作ろう」(堤)

【大阪府教育センターパッケージ研修支援】

国語科・数学科の教科を合わせた指導に

パッケージ研修支援については、事前授業の見学後に研究授業に向けた指導助言を受け、研究授業後に講評をいただくという流れになっている。

おける観点別学習状況の評価の在り方を検討する。

事前授業:R04/10/07

研究授業:R04/11/11

(1) 中学部1年Fグループ グループ学習

(4) 高等部3年 自立活動「GIGA タブレッ

国語科「詩を作ってみよう」(松浦)

ト端末を使った学習」(糸川)

自分でテーマを設定して自由に詩を創作するという活動を通して、子どもたちが粘り強く考えて表現の選択や遂行に取り組む主体的に学習に取り組む態度の在り方や工夫について検討する。

GIGA スクール構想で配付された1人1台端末のiPadを活用し、Googleclassroomでコグトレプリント PDF データを配信し、各生徒がそれらを自端末に取り込み、Apple ペンシルを使用して書き込み、課題を提出する流れを通して、ICT 機器活用の例示を示す。

事前授業:R04/10/07

事前授業:R04/10/21

研究授業:R04/11/11

研究授業:R04/12/09

(2) 中学部2年 音楽科「オリジナルリズム

で和太鼓を演奏しよう」(麻生川)

様々な実態の生徒が在籍する学年全体での授業において、単元の評価規準をどのように設定すべきかを検討する。

【藤井教授による指導助言】

(5) 小学部2年めろんグループ こくごさんすう「でんしゃごっこ」(野見山)

事前授業:R04/10/21

粗大運動を通しての感覚統合へのアプローチと、電車の世界を通して主体的に活動に取り組む姿や意思の表出を引き出す。

研究授業:R04/12/09

(3) 高等部2年 国語数学「調理レシピを

研究授業:R04/12/08

(6) 中学部3年Eグループ グループ学習
数学科「グラフで自分を表そう」(辰己)
表とグラフを生活と接続させるため、中学部3年間の自身の変化や自分の性格を表すことに活用し、卒業後の進学へ繋げていく。

研究授業:R04/11/28

7. 「授業づくりプロジェクト」授業動画上映会(授業づくり研修②) R04/12/09
本校では内部公開授業においては、該当学部以外の児童生徒を一便下校とし、他学部教員が授業を見学できるようにしている。しかし、今回の授業づくりプロジェクトにおいては、事前授業や研究授業は普段の授業の中で行っており、校内のほとんどの教員は実際の授業を見学できていなかった。

そこで研究協議に先立ち、校内の教員がそれぞれ選択した研究協議会場ごとに授業動画上映会を計画した。指導案だけでなく、実際の授業の様子を知ってもらふ必要があると考えたからである。

事前に全校教員へ希望アンケートを実施し、

研究協議の6分科会ごとに分かれて上映会を実施した。上映会では授業者から、授業の様子の子の解説や、教材、授業の成果物の紹介があった。

8. 「授業づくりプロジェクト」研究協議兼パッケージ研修支援全大会②(授業づくり研修③) R05/01/20

研究協議は授業者ごとの6つの分科会に分かれて開催した。前半30分で、授業の振り返り、授業者からの振り返りとそれぞれの研究授業助言者からの助言、参加者からの感想と気づきの発表を行い、後半30分は参加者が5名程度のグループに分かれ、それぞれが思う『子どもたちが主体的に学ぶための授業の工夫』をテーマに意見交換するグループワークを行った。

どの分科会会場でも参加教員が熱心にそれぞれの授業での工夫などを語り、見学された大阪府教育センターの指導主事からも「30分間ではもったいない。もっとグループワークの時間があってもよかったのではないかと参加者の活発な意見交換について評価いた

だいた。

各教員は担当教科に応じた様々な意見を出し
合うなど、来年度に向けた一人ひとりの意識
の高まりが感じられました。※2

※2大阪府教育センターホームページ

「府立支援学校における組織的な取組みの
支援」より引用

https://www.osaka-ed.jp/category/forteacher/development/shien/pdf/O1_2022_izumi.pdf

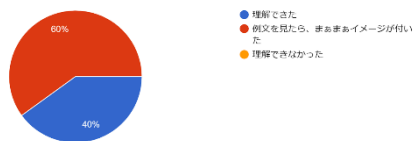
※それぞれの分科会でのスライド資料は資料

I_03「令和4年度授業づくりプロジェクト
研究協議」を参照

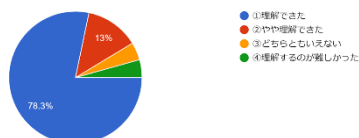
9. アンケート結果

(内部公開授業アンケート)

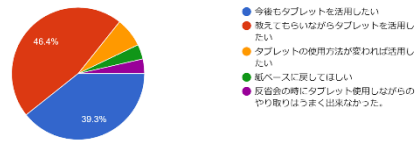
略案を作ることで、評価と指導の一体性(関連性)について、理解できましたか
5件の回答



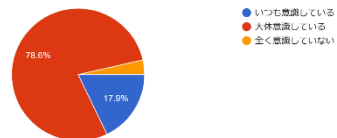
略案を見て授業者のねらいと内容が理解できましたか
23件の回答



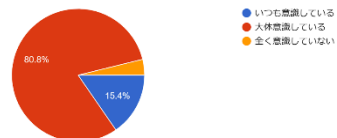
今後の公開授業等でのタブレットの活用について
28件の回答



1番段の授業でPDCAサイクルを意識していますか。 P..案) ,Do (授業) ,Check (評価) A (次の授業)
28件の回答

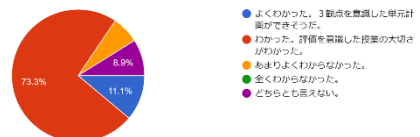


2番段の授業でキャリア教育を意識していますか。
26件の回答

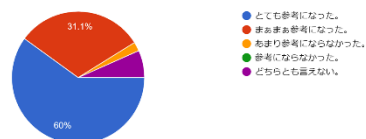


(授業づくり研修③アンケート)

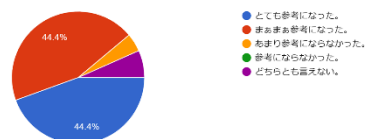
研究協議を通して、観点別評価についての理解が深まりましたか。
45件の回答



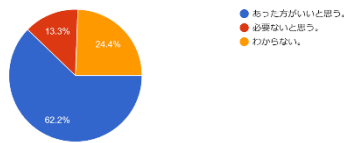
各授業者の発表内容は、ご自身の授業づくりの参考になりましたか。
45件の回答



後半のグループワークは子どもたちの主体的な学びを考える上で参考になりましたか。
45件の回答



今後も研究協議では、グループワーク形式の取組みがあった方がよいと思いますが、45件の回答



<授業づくり研修についての意見や感想の一部抜粋>

- ・グループワークで主体的な授業について他学部の先生と深まった話ができ
- ・主体的な学びについて、別の学部の考え方の違いを知ることができ、参考になった。
- ・さまざまな支援方法や、スモールステップで達成感を味わうこと、見通しを持つこと、毎回の振り返りを行うことで学びに向かう姿勢がよく身につけているなど授業を見学して感じました。自分の授業でも主体性をもって活動できるよう取り組んでいきたいと思えます。
- ・授業づくりについて考えたり、勉強したりする機会は授業力の向上に欠かせないと思うので、有意義な研修になったと思う。研究部の先生おつかれさまでした。
- ・今回のように動画をじっくり見ることが良かった。
- ・グループワークを他学部の先生方と取り組めたのが良かったです。学部ごとにねらいの違いの必要性を感じたし、今の瞬間と将来両方をまあるく包み込んだ指導につながると感じました。
- ・互いに活発に意見交換ができて有意義な研修になったと感じた。

10. アンケート結果より

授業づくりプロジェクトを通して観点別評価への意識は高まったようである。また研究協議でも活発な意見交換が行われていたが、各授業者が大切にしていることの発表は授業づくりの参考に「とてもなる」が60%と高い評価であった。後半に行ったグループワークに対しても好評価が多かったようである。

観点別学習状況の評価やPDCAサイクル、

キャリア教育(キャリアプランニング・マトリックス)、ICT 機器の活用については、この3年間のアンケート結果を後で考察する。

11. 授業スタンダード(案)づくり

「授業づくりプロジェクト」を実施し、6名の研究部員がそれぞれ授業づくりで大切にしていることを発信した。また研究協議のワークで意見交換した、参加教員が授業づくりで大切にしていることも参考にし、研究部で授業スタンダード(案)を検討した。授業力向上主任・人材育成主任・GIGA 主任が中心となって原案を検討し、これまで和泉支援で取り組んできたUD(ユニバーサルデザイン)の視点を取り入れた、4つの項目で作成した。

もちろん目の前の子どもの実態に応じて、行う支援や配慮は異なってくる。具体的な内容は挙げていけばきりが無いのだが、情報量が多くなりすぎると活用しづらいものになる。項目や内容が多く情報過多になると使いにくいものになってしまうかもしれない。

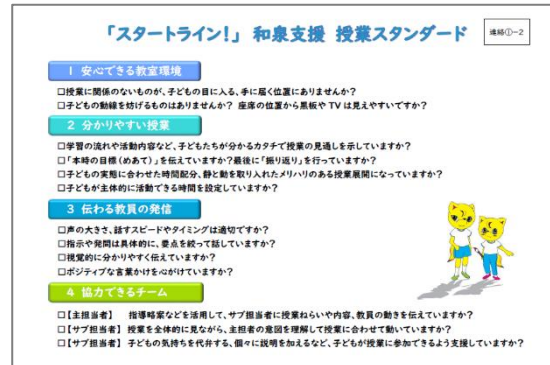
研究部会での検討では、「十分な経験や実

践を積まれている教員からすれば物足りない
 内容ではないか」「チェック形式にすると、具
 体例となる項目も膨大な量になってしまい普
 段使いづらいものになってしまうのではない
 か」「学部によって児童生徒の実態や目標は
 異なるので学校全体でつかうためにはどのよ
 うなものがよいだろうか」「これまで取り組ん
 できた観点別評価や主体的・対話的で深い
 学び、キャリアプランニング・マトリックスに関
 連した記載があった方がいいのではないか」
 などの意見が出た。

そして、「まずは初任者教員や支援学校に
 転勤してきたばかりの教員が普段の授業づく
 りの際に活用しやすいものを」と掲載内容に
 ついてはなるべくシンプルに、ポイントを押さえ、
 情報量を少なくする方がいい」そのように研
 究部内で意見交換を重ね、授業スタンダード
 (案)が完成した。

タイトルにある「スタートライン!」という言葉
 はそのような意味である。

※授業スタンダードについては、資料I_08
 「スタートライン!和泉支援学校授業スタンダ
 ード」参照。



<授業スタンダード(案)>

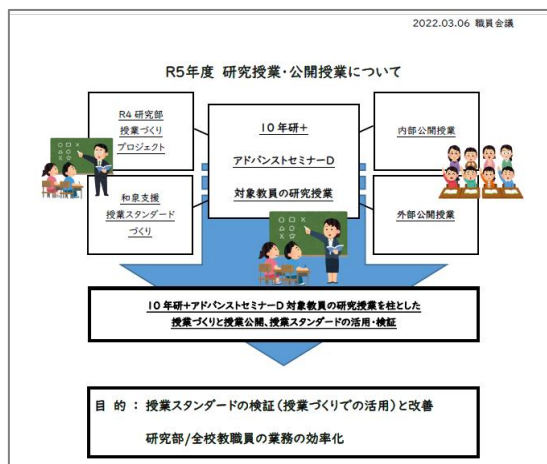
12. 次年度の計画

本校ではこれまで10年経験者研修および
 アドバンスセミナーD「授業づくり」の研究授
 業を全校的に見学する体制が十分に整って
 いなかった。また学校長からは次年度以降、
 公開授業を拡大するよう指示があった。具体
 的には、これまで3年間で毎年1学部ずつの
 実施であった公開授業を、1年間で小学部・
 中学部・高等部の3学部全てで公開授業を実
 施するよにとのことであった。

令和4年度のように毎年度、研究部員が研
 究授業を継続して行うのは難しく、働き方改革
 の面からも持続可能な形を模索した。授業動
 画上映会の反省からも、実際の授業を見学し
 た上で研究協議に臨む形が、研究協議の反
 省会から参加者がワークに取り組む形が望ま

しいと考えられた。

その結果、令和5年度には「授業スタンダード(案)の検証」を目的に、10年経験者研修およびアドバンスセミナーDを柱とし内部公開授業と外部公開授業を合わせた取り組みの計画がスタートし、3月職員会議にて提示された。



<職員会議提案資料>

●令和5(2023)年度 の取組み

1. 授業スタンダード(案)の提案

前年度、研究部で検討していた授業スタンダード(案)を5月職員会議にて提案し、前年度末から提案していた今年度の10年経験者研修とアドバンスセミナーD 対象教員の研究授業を柱とした授業づくり・内部/外部授業公開、授業スタンダードの活用・検証の取組み

がスタートした。

2. 学校経営計画

令和5年度の学校経営計画の中期目標には、研究部に関連する以下の内容が示されていた。

1 学習指導要領の確実な実施

教員の専門性の向上を図り、教材教具の工夫・活用の促進と、児童・生徒一人ひとりの障がいの特性や発達状況に応じた教育を実践するとともに、大学と連携した研究を一層推進し、「確かな学力」の育成と授業改善に取り組む。

- (1) 児童・生徒の三つの資質・能力を明確にし、それを各教科等の指導のねらいとして設定したうえで、授業等を行う。その際、「主体的・対話的で深い学び」の実現や「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、指導と評価の一体化の観点から、PDCA サイクルによる授業改善に努める。
- (2) 「児童生徒1人1台端末活用プラン」に基づき、各授業において1人1台端末を効果的に活用し、児童・生徒の学習活動を一層充実させる。デジタル教材について活用を進める。
- (3) 省略

※R5—「和泉支援学校授業スタンダード」と「キャリアアップランニングマトリックス」を関連付けて作成し、授業で活用のうえ改善を図る。アンケートを実施し、「授業スタンダードは役にたった」教職員の肯定的評価70%以上。(新規)

※R6—「和泉支援学校授業スタンダード」に基づいた授業実践の充実。(専門人材の活用による検証)

※R7—学校見学会や公開授業等を通じて、「和泉支援学校授業スタンダード」を発信する。

2 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実

障がいの有無にかかわらず、すべての児童・生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育の充実と社会参加に向けた生きる力の育成を図る。

(1) 省略

(2) 児童・生徒が将来の進路を主体的に選択できるよう小学部の段階から、障がいの特性や発達段階に応じてキャリア教育の推進を図り、進路に関する適切な情報を本人・保護者に提供する。職場見学等の体験学習の充実に努めるなど、キャリア教育を計画的・総合的に進める。

(3) 個々の児童・生徒のニーズに基づく進路保障に向け、「キャリアプランニングマトリックス」と教育課程、教科の関連性を図り、高等部職業コースの充実や就労・社会参加につながるキャリア教育を一層推進した特色ある学校づくりをめざす。

※R5-「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「キャリアプランニング・マトリックス」の関連付けと改善。
高等部職業コース「チャレンジコース」の改編に係る検討。

令和5年度の授業スタンダード策定についても記載されており、学校経営計画の核になる取組みであると管理職から話があった。「主体的・対話的で深い学び」の実現については、授業スタンダード(案)に関連する内容が掲載されており、また「観点別学習状況の評価」や「キャリアプランニングマトリックス」については前年度改訂した指導略案に反映された部分であった。

それらの内容を踏まえた上で R5年度の授業スタンダードの検証への取組みがスタートした。

3. 10年研/アドバンスセミナーD向けガイダンス R05/05/11 と授業見学

令和5年度の本校での10年経験者研修とアドバンスセミナーD(以下アドD)対象教員は4名であった。

5月に研究授業に向けたガイダンスを実施

し、それぞれの研究授業とそれらに併せた公開授業での時間割調整を進めた。ガイダンスで共有した内容は以下の通りである。

- ・授業スタンダード(案)の目的と、今年度の公開授業における研究授業と研究協議へのねらい(授業スタンダード(案)の検証)
- ・研究協議では授業スタンダードの視点で振り返った自身の具体的な実践(例えばこの子どもには「●●のような特性や実態があるから、■■■のような配慮や支援の手立て、授業内容を設定した」などの内容)について話してほしい。
- ・大阪府教育センターでの研修提出用指導細案には、指導観、児童生徒観、教材観の欄がないが、先生方の授業を通して学んでもらうため、また授業スタンダードの活用につなげるために本校校内向け指導細案には、指導観、児童生徒観、教材観を記載してもらう。
- ・研究授業の内容に関する意見やアドバイスは別途 GoogleForm でのアンケートで集約して伝えること。
- ・今後のスケジュール(授業見学や指導案提出、研究協議など)

今回の公開授業での10年研/アドD対象教員による研究授業の目的は「授業スタンダード(案)」の検証である。前年度の授業づくりプロジェクトで各教員が授業で大切にしているものを再確認したように、10年研/アドD対象教員に自身の授業を振り返ってもらい、「各自が授業スタンダードの視点で取り組んでいることや大切にしていること」を再確認してもらえる形になればと考えた。

そのためにも研究授業だけでなく、単元全体や普段の授業での取組みを研究協議で伝えてもらいたいと思い、1学期中から4名の研究授業者の授業を研究部員が見学し、研究授業者から授業についての聞き取りをした。それらの内容も含めて、研究部員で研究協議での研究授業発表スライド資料を作成した。

4. 公開授業と研究協議 R05/09/19～22

令和5年度の公開授業は9月19日(火)～22日(金)4日間行われた。内3日間の19日(火)は小学部、20日(水)は高等部、21日(木)は中学部の研究授業日とし、それ以外の

学部は1便下校で、他学部の5限研究授業を見学できるようにした。

令和5年度の公開授業で実施された研究授業は以下の4つである(※研究授業の指導案は資料I_04「令和5年度 公開授業/研究授業指導案」を参照)。

- (1) 高等部1年4グループ 職業実践「自分を知り、自分を伝える」(野上)
- (2) 高等部2年4グループ 生活「都道府県について新聞を作成してみよう」(高木)
- (3) 高等部2年6グループ 生活「18歳で成人になるとできること」(櫻田)
- (4) 高等部3年4グループ 国語数学「詩を作って、互いに鑑賞しよう」(廣田)

令和5年度より内部外部の公開授業を合わせて実施したため、見学は本校教員、外部教員どちらも同時に行った。

研究協議は、昨年度の研究協議でのグループワークの反響を受け、研究授業ごとの4つの分科会に分かれて開催した。参加者は事前に希望アンケートを実施し、可能な範囲で授業を見学してもらうようアナウンスした。研究協議の前半は研究授業者から「自身授業がスタ

ンダードの視点で取り組んでいることや大切にしていること」を公表してもらい、後半は5～6名のグループに分かれ、それぞれのグループで参加教員が授業スタンダードの視点で取り組んでいる実践例について共有するグループワークを実施した。

今回も特に後半のグループワークでは活発な意見交換が行われた。それぞれのグループワークで共有した内容は全校的にも共有した方がいと判断し、それぞれの分科会ごとに授業スタンダードの4つの視点に整理した実践例を研究部が作成し、掲示した（※資料1_05「令和5年度公開授業研究協議グループワークまとめ」参照）。

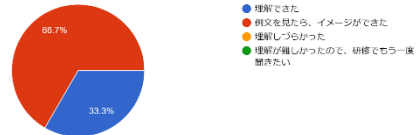


<研究協議の様子>

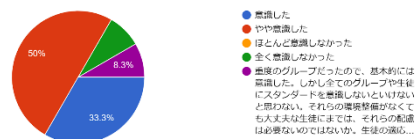
また外部からは、14の保育園・小学校・（研究協議アンケート） 中学校・高等学校・支援学校から、のべ23名の見学があった。

5. 令和5年度公開授業アンケート結果 (校内見学者アンケート)

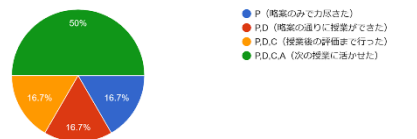
略案を作ることで、評価と指導の一体性(関連性)について、理解できましたか
12件の回答



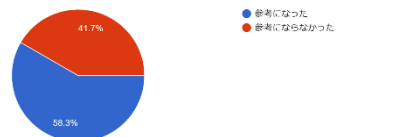
授業づくりに、「和泉支援授業スタンダード」を意識しましたか。
12件の回答



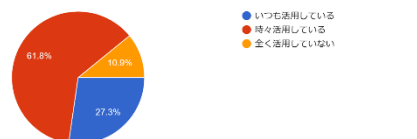
公開授業によってPDCAサイクルを意識できましたか。...Do (授業) ,Check (評価) A (次の授業)
12件の回答



キャリア教育の視点が参考になりましたか
12件の回答

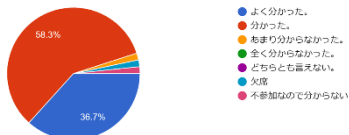


普段の授業でICTを活用していますか
55件の回答

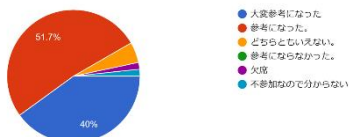


(研究協議アンケート)

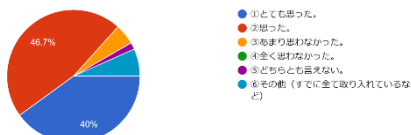
研究協議を通して、『和泉支援授業スタンダード』についての理解が深まりましたか。
60件の回答



後半のワークは、ご自身の授業を考える上で参考になりましたか
60件の回答



『和泉支援授業スタンダード』をご自身の授業に取り入れていこうと思いませんか。
60件の回答



<見学された研究授業についての感想の一部抜粋>

- ・意見を伝え合うことで、新聞を書いたことの達成感につながっていると感じました。まず紙に感想を書いて整理してから友達に伝え合う流れになっていて、じっくり考えた意見を伝えやすい構成だなと感じました。
- ・小学部からはカルチャーショックだが、このような力をつけていけば良いという指標をもらえた気がする。
- ・高等部の授業を初めて見学させていただいて、小学部とは全く違うことに気付きました。今受け持つ児童が高等部になった時、必要な力を今どのようにして力をつけていくのか、改めて考えるきっかけになりました。
- ・小学部の子どもたちが将来このような学習をできるように今の授業を考えていかなければいけないのだと感じました。
- ・小学部の授業の様子と違いすぎて驚いた。高等部の子どもたちが将来に向けてどんな力を養うために今の課題に取り組んでいるのかを知ることが出来た
- ・たくさん工夫をされていることがよくわかった。特に実態に合わせた活動になっていること、ステップを踏み成功体験が積みあがるような課題設定になっていること、楽しく参加し主体的に自由な発想で表現できるようになっていることなど、たくさん勉強になりました。
- ・自分の気持ちや考えと向き合い、また人の気持ちにも思いをは

せれる題材設定と仕掛けのある、とても良い授業だったと思います

- ・生徒の意見をうまく汲み取る(自主的に活動に取り組む)ために、あえて「待つ」ことの大切さを学びました。また、意見を言いやすくするために気持ちや表現の仕方を代弁することで、発言しやすい環境を作れるのが魅力だと思いました。
- ・高等部 2 年の研究授業で生徒がイキイキと発表できていたことで調べ学習から自分たちのために自信が持てたということがそれまでの授業成果が素晴らしいということがよくわかった。

6. 令和5年度公開授業アンケート結果

より

研究協議アンケートにおける「授業スタンダードについて理解が深まった」や「授業スタンダードを自身の授業に取り入れていこうと思う」に関する肯定的評価(よくわかった+わかった)が、それぞれ97%、86.7%と高い割合であった。また研究協議後半のグループワークについても肯定的評価(大変参考になった+参考になった)も91.7%と高かった。今回のように実際に研究授業を見学し、授業者から実践例や工夫、意図、ねらいについて話を聞く機会を設定することや、グループワークでそれぞれの意見を交換する場を設けることは、理解促進や意識を高めるために有効だったと考えられる。

研究協議のスライドづくりに際して、研究部員が授業を見学し、取り組んでいる内容を授

業スタンダードの視点で見直すことで、研究授業者からは「自分の取組んでいる内容が整理できてすごくよかった」「実はこんな工夫もしていたんだと再発見できた」という声もあった。

また今回は研究授業者が高等部教員のみになってしまったが、他学部から将来の進路指導を見通した視点や、卒業から逆算してつけておくべき力を振り返るきっかけになったという声があった。職業実践などキャリア教育に関連する研究授業もあり、キャリア教育という視点からしても他学部、特に出口となる高等部について知る良い機会になったのではないと思われる。

7. 次年度に向けた計画

公開授業での授業スタンダード(案)検証や教材教具展示会、ICT 活用研修など研究部の取組み内容については学校運営協議会でも共有していただき、高い評価をいただいた。

次年度には令和5年度学校経営計画に示されている、令和6年度の「和泉支援学校授

業スタンダード」に基づいた授業実践の充実、さらに、令和7年度の学校見学会や公開授業等を通じて、「和泉支援授業スタンダード」発信を踏まえた取組みが必要になる。

令和6年度が3年に1度の実践報告集発行の年になっていることから、地域への発信として授業スタンダードの取組みだけでなく、和泉支援学校内での具体的な実践例を紹介した方が有意義ではないかと考えた。そこで、令和6年度は令和5年度のように10年研・アドD対象教員による授業スタンダード視点での取組み発表に加えて、全教員に授業スタンダード取組み内容についてのワークシートを作成して共有する研究協議を設定し、それらをまとめて授業スタンダード事例集を作成することとした。

また本校では学部を横断した教科会が十分に機能しておらず、新転任者や特に専科ではない小学部教員などが教材や教科指導について相談する場が確保されていないという課題があった。そこで、ワークシートの作成に当たっては自身の希望する教科ごとに作成し、研究協議の場で教科ごとに分かれ、各教科に

における授業スタンダード視点の実践例の共有や、教科指導における質問や相談などを実施することとした。

以上のような公開授業と10年研・アドD対象教員の研究授業を併せて実施し、研究協議を2回実施する次年度の計画は2月職員会議にて承認された。

●令和6(2024)年度取組み

1. 学校経営計画

令和6年度の学校経営計画の中期目標には、研究部に関連する以下の内容が示されていた。

1 学習指導要領の確実な実施

教員の専門性の向上を図り、教材教具の工夫・活用の促進と、児童・生徒一人ひとりの障がいの特性や発達状況に応じた教育を実践するとともに、大学と連携した研究を一層推進し、「確かな学力」の育成と授業改善に取り組む。

(1) 児童・生徒の三つの資質・能力を明確にし、それを各教科等の指導のねらいとして設定したうえで、授業等を行う。その際、「主体的・対話的で深い学び」の実現や「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、指導と評価の一体化の観点から、PDCA サイクルによる授業改善に努める。

(2) 「児童生徒1人1台端末活用プラン」に基づき、各授業において1人1台端末を効果的に活用し、児童・生徒の学習活動を一層充実させる。デジタル教材について活用を進める。

(3) 省略

※R6-「和泉支援学校授業スタンダード」に基づいた授業実践の充実。(専門人材の活用による検証)

※R7-学校見学会や公開授業等を通じて、「和泉支援学校授業スタンダード」を発信する。

※R8-「和泉支援学校授業スタンダード」をHPで発

信し、地域の小中学校等の支援に供する。

2 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
障がいの有無にかかわらず、すべての児童・生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育の充実と社会参加に向けた生きる力の育成を図る。

(1) 省略

(2) 児童・生徒が将来の進路を主体的に選択できるよう、小学部の段階から、障がいの特性や発達段階に応じてキャリア教育の推進を図り、進路に関する適切な情報を本人・保護者に提供する。職場見学等の体験学習の充実を努めるなど、キャリア教育を計画的・総合的に進める。

(3) 個々の児童・生徒のニーズに基づく進路保障に向け、「キャリアプランニングマトリックス」と教育課程、教科の関連性を図り、高等部職業コースの充実や就労・社会参加につながるキャリア教育を一層推進した特色ある学校づくりをめざす。

授業スタンダードの発信についても明記されており、授業実践の充実や地域への発信が掲げられている。

2. 10年研/アドD向けガイダンス R04/06/14と授業見学

令和6年度の本校での10年経験者研修とアドバンスセミナーD対象教員は9名であり、内公開授業で研究授業を実施するのは7名であった。

6月に研究授業に向けたガイダンスを実施し、それぞれの研究授業とそれらに併せた公開授業での時間割調整を進めた。ガイダンスでは令和5年度と同様の内容を共有した。

今回の公開授業での10年研/アドD対象

教員による研究授業の目的は「自身の授業スタンダード実践例の発表」である。10年研/アドD対象教員に自身の授業を振り返ってもらい、「各自が授業スタンダードの視点で取り組んでいることや大切にしていること」を伝えてもらうことで、全教員が作成する実践報告集のためのワークシート作成の助けになると考えた。

ワークシートでも普段の取組みを記載してもらうこともあり、研究授業だけでなく、単元全体や普段の授業での取組みを研究協議で伝えてもらうために、1学期中から7名の研究授業者の授業を研究部員が見学し、研究授業者から授業についての聞き取りをした。それらの内容も含めて、研究部員で研究協議での研究授業発表スライド資料を作成した。

3. 研究協議用ワークシートの作成

令和6年度は実践報告集での『和泉支援授業スタンダード実践例集』作成に向け、公開授業と10年研/アドD対象教員による研究授業の研究協議を2回実施することとしていた。

研究協議①では、前半は令和5年度同様に10年研/アドD対象教員による授業スタンダード視点での自身の実践を報告してもらい、後半は参加者が自身の授業スタンダード視点での取組みをワークシートに記入する時間とした。

研究協議②は、希望した教科ごとの会場に分かれて行う。4~5名程度のグループごとに作成したワークシートを基に、それぞれの実践例を共有し、また教科指導に関する質問や相談を行うこととした。グループはワールドカフェ方式で入れ替えを行い、実践例の共有や教科担当者同士のつながりがより多くなればと考えた。また具体的な取組み内容がわかりやすいよう、可能であれば授業で活用している教材を持参してほしい旨をアナウンスした。

ワークシートについては研究部で記入例を含めた枠データを作成し、必要に応じて事前に作成できるよう学部会で連絡した(※資料I_06「令和6年度 公開授業 研究協議②ワークシート記入例」参照)。

4. 公開授業と研究協議 R06/09/17～
20

令和6年度の公開授業は9月17日(火)～20日(木)の3日間行われた。前年度同様に、17日(火)は小学部、18日(水)は高等部、19日(木)は中学部の研究授業日とし、それ以外の学部は1便下校で、他学部の5限研究授業を見学できるようにした。最終日の19日(木)放課後に研究協議①が、20日(金)放課後に研究協議②が設定された。

令和6年度の公開授業で実施された研究授業は以下の7つである(※研究授業の指導案は資料1_07「令和6年度 公開授業/研究授業指導案」参照)。

- (1) 小学部1年1・5組 音楽「音楽で遊ぼう」
(林)
- (2) 小学部1年2・3・4組 生活「どうぶつえんにいこう!」(阪下)
- (3) 小学部4年1・2組 生活「買い物しよう」
(渡邊)
- (4) 中学部2年全体 学年体育「ポートボール」
(高橋)
- (5) 中学部2年 D グループ グループ学習

「外国の文化について調べたことを発表しよう」(中富)

(6) 高等部2年東西グループ 音楽「リズムを感じて合奏しよう」(土橋)

(7) 高等部3年1グループ 職業実践「おしごと(軽作業)」(西野)

令和5年度同様、内部外部の公開授業を合わせて実施したため、見学は本校教員、外部教員どちらも同時に行った。

研究協議①は前半は前年度同様、それぞれが希望した研究授業ごとの会場に分かれ授業スタンダードの視点での実践発表を行った。参加者からは「やはり授業を見るだけではなく、児童生徒の実態や身に付けてほしいか、なぜそのような取組みや工夫をしているのか」という意図を知ることがより深い理解に繋がるといった声があった。後半はそれらの発表を参考に、今度は参加者が翌日の研究協議②に向けたワークシートを作成する時間とした。

研究協議②は希望した教科ごとの8つの会場に分かれて開催した。

①国語・英語

②数学・算数

③理科・社会・生活

④音楽

⑤図工・美術

⑥保健体育

⑦職業・家庭科・作業

⑧道徳

それぞれの会場ごとで実際に授業で活用している教材を持参するなど活発な意見交換が見られた。教科指導についてアドバイスを受けることができ良い機会となったという声が多かった。特に⑤図工・美術ではそれぞれの授業で取り組んだ作品がたくさん集まり、さながらプチ作品展のようにそれぞれの作品のねらいや工夫などを時間いっぱいまで語り合う様子が見られた。

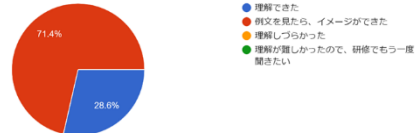
研究協議②で使用した全校教員によるワークシートは研究部によって、本実践報告集『4 和泉支援授業スタンダード実践例集』としてまとめられている。

また外部からは、12の保育園、小学校、中学校、高等学校、専修学校、教育委員会からのべ21名の見学があった。

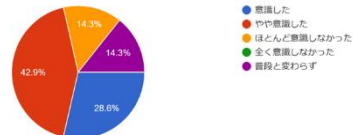
5. 令和6年度公開授業アンケート結果

(校内見学者アンケート)

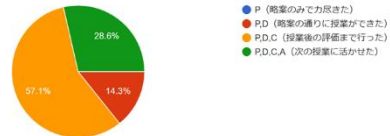
略案を作ることで、評価と指導の一体性(関連性)について、理解できましたか
7件の回答



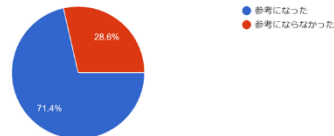
授業づくりに、「和泉支援授業スタンダード」を意識しましたか。
7件の回答



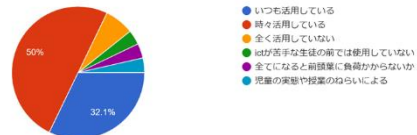
公開授業によってPDCAサイクルを意識できましたか。...Do (授業) ,Check (評価) ,A (次の授業)
7件の回答



キャリアプランニング・マトリックスから授業を掘り、キャリア教育の視点の参考になりましたか
7件の回答



普段の授業でICTを活用していますか
28件の回答



<今後のより良い公開授業の在り方についての意見の一部抜粋>

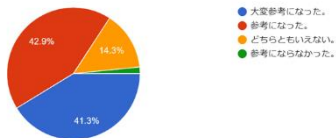
- ・匿名で授業や指導案の改善点を教えてほしい
- ・他学部を見ることも大事だと思いますが、自分の授業にすぐに直結させられるようにすることがねらいであれば、同じ学部の他学年を見る機会を作っていただきたいです。

日目小1.4、中1、高1、2日目小2.5、中2、高2、3日目小3.6、中3、高3等。

- ・良い交流になると思います。今の形だと見に行きやすいです。
- ・今回の継続をお願いします。

(研究協議アンケート)

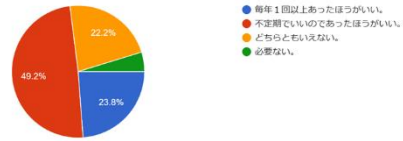
ワークシートの作成は、ご自身の授業を振り返る上で参考になりましたか。
63件の回答



<ワークシートや研究協議②の進め方についての意見の一部抜粋>

- ・自分自身を振り返ったり、他教員に知ったりしてもらうにはわかりやすいため、ワークシートが活用できると思う。ただ、書く量が多すぎて短時間では厳しい。
- ・研究部の先生が進めていただけたので、充実した話し合いになりました。
- ・ワークシートより美術なら作品がいい
- ・学部を超えての意見交換が良かった。授業に取り入れたい。
- ・グループで話を深めることができてよかった。
- ・他の先生方の授業の工夫を知ることがよかったです。
- ・普段行っている授業が言語化されて振りかえることができて良かった
- ・少人数で意見交換ができて良かったです。
- ・様々な意見、取り組みについて知ることができてとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ワークシートを作成することで、必要な視点、抜けている視点などがわかった。こうした授業準備をする時間がしっかりと確保されるようにできるとよい。
- ・各学部の実態をお聞きすることができてよかったです。ワークシートは、もう少し簡潔な形式で良いかと思います。
- ・ワークシートの記入に時間がかかり、次の日に使用するのに間に合わなかった。
- ・普段から教科会や相談で行っているので必要性を感じなかった。

今回、教科ごとに分かれてワークシートを活用し...情報を共有する機会についてどう思われますか。
63件の回答



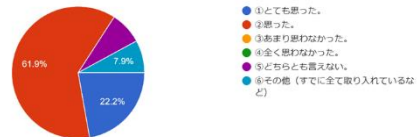
研究協議①②を通して、『和泉支援授業スタンダード』についての理解が深まりましたか。
63件の回答



研究協議は、ご自身の授業を振り返り、今後の...づくりをしていく上で、参考になりましたか。
63件の回答



『和泉支援授業スタンダード』をご自身の授業に取り入れていこうと思いましたが。
63件の回答



6. 令和6年度公開授業アンケート結果より

研究協議②に関して、今回新たに取り組んだ、ワークシートの作成は「自身の授業を振り返るうえで参考になった」については肯定的評価(大変参考になった+参考になった)が84.2%、「教科ごとに分かれての意見や情報を交換する機会の設定」については肯定的評価(毎年1回以上あった方がいい+不定期でい

いのであった方がいい)が71.4%と高い割合であった。

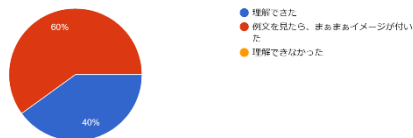
ワークシートや教科ごとの研究協議についても肯定的な意見が多数あったが、やはりワークシート作成の負担はあったようである。

また公開授業のあり方については、他学部だけでなく同じ学部内の授業を見学する機会を設定したいという意見があり、今後の検討課題としたい。

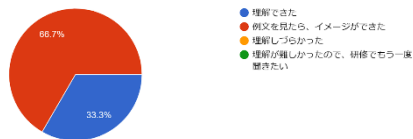
●アンケート結果から3年間の考察

1. 観点別学習状況の評価(指導と評価の一体化(関連性)について)

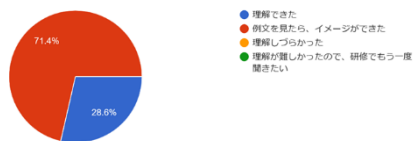
略案を作ることで、評価と指導の一体化(関連性)について、理解できましたか
5件の回答



略案を作ることで、評価と指導の一体化(関連性)について、理解できましたか
12件の回答



略案を作ることで、評価と指導の一体化(関連性)について、理解できましたか
7件の回答

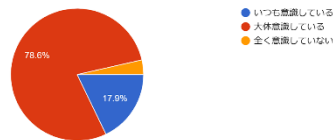


観点別学習状況の評価については、アンケート結果からは「略案を作ることで評価と指導の一体性について」の項目で、3年間を通して肯定的評価(理解できた+例文を見たら、イメージができた)が100%である。数値上は「理解できた」の割合が年々低下しているが、略案作成時に研究部に対する質問や助言は3年間でほぼ無くなっている。

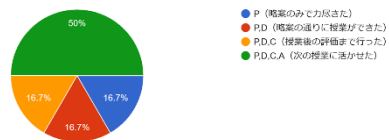
令和6年度からは各教科の個別の教育指導計画に観点別評価の(ア)知識・技能、(イ)思考・判断・表現、(ウ)主体的に学習に取り組む態度を記載し始めたこともあり、観点別学習状況の評価については校内で一定の理解が広がっているのではないと思われる。

2. PDCA サイクルに基づく授業改善

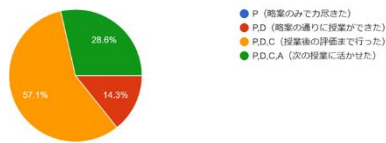
1番目の授業でPDCAサイクルを意識していますか。 P..(案) Do (授業) Check (評価) A (次の授業)
28件の回答



公開授業によってPDCAサイクルを意識できましたか。 ...)Do (授業) Check (評価) A (次の授業)
12件の回答



公開授業によってPDCAサイクルを意識できましたか。...Do (授業) ,Check (評価) A (次の授業)
7件の回答



指導略案については、各日5限の研究授業担当者が作成した。令和5年度からは外部見学者は学校 HP 上にパスワード付きで、内部見学者は Google ドライブ共有フォルダ上で指導略案データを閲覧できるようにした。

PDCA サイクルについては、令和3年度大阪府教育センターパッケージ研修支援「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善※3」を受け、全校的に共有していた。

※3大阪府教育センターホームページ

「府立支援学校における組織的な取組みの支援」参照

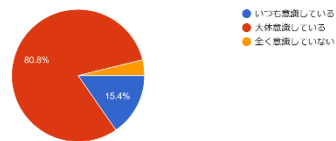
https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/development/shien/pdf/O2_R3_izumi.pdf

質問項目については、令和5年度から具体的に PDCA のどの段階まで取り組めたのかを確認できる質問項目を少し変更した。令和5年度からの「PDCA までサイクルを回し、次

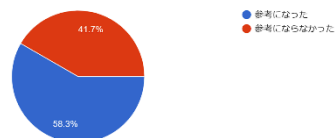
の授業に活かした」の回答割合は低下しているが、「P (略案のみで力尽きた)」の回答は令和6年度では無くなっている。令和4年度には「PDCA サイクルを全く意識していない」の回答があったことも考えると、和泉支援全体で PDCA サイクルに対する意識は高まっていると思われる。

3. キャリア教育

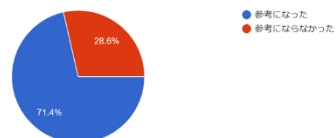
2段階の授業でキャリア教育を意識していますか。
25件の回答



キャリア教育の視点が参考になりましたか
12件の回答



キャリアプランニング・マトリックスから授業を振り返り、キャリア教育の視点が参考になりましたか
7件の回答



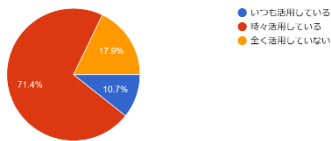
本校は令和3年度にキャリアプランニング・マトリックスを改訂し、指導略案裏面に授業のねらいとなる項目にチェックをつけるようにし

ている。また職員室内などに掲示し、啓発に努めてきた。

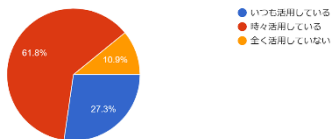
アンケートの回答結果から、「公開授業の取組みがキャリア教育の視点の参考になっているか」という項目の肯定的回答(参考になった)が、58.3%から71.4%に上昇しており、キャリア教育への意識の高まりが広がってきていると考えられる。

4. ICT の活用

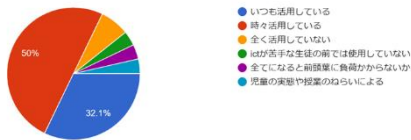
3曹段の授業でICT活用をしていますか。
28件の回答



普段の授業でICTを活用していますか
55件の回答



普段の授業でICTを活用していますか
28件の回答



ICT の活用については、令和4年度から研究部が中心となって ICT 活用研修会を企画

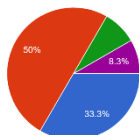
してきた。その成果もあり、校務分掌などの業務においても Google ドライブや Google クラウドスルームでの会議等におけるデータ共有、Google フォームでのアンケート作成など ICT の活用例が広がってきた。また研究部が中心となり、Google ドライブ「共有フォルダ」内に Keynote スライドデータを保管するフォルダを作成した。

ICT 活用研修会にて Keynote スライドの作成についての講座を毎年行っていることもあり、教員間でも Keynote などスライド作成アプリを活用し、TV や電子黒板にスライドを映す授業は珍しいものではなくなっている。

アンケート結果からは、毎年「いつも活用している」の割合が増加し、「全く活用していない」の割合が低下してきているように、ICT の活用が広がっている様子がうかがえる。また令和6年度の回答からは、「児童生徒の実態や授業のねらいによって」という意見が見られるなど、ICT機器の活用が当たり前になってきたからこそ、場面に応じた活用を検討されている、教員の意識の変化が垣間見えた。

5. 授業スタンダード

授業づくりに、「和泉支援授業スタンダード」を意識しましたか。
12件の回答



● 意識した
● やや意識した
● ほとんど意識しなかった
● 全く意識しなかった
● 年度のグループだったので、基本的には意識した。しかし全てのグループや生徒にスタンダードを意識しないといけないと思わない。それらの準備整備がなくて大丈夫な生徒までは、それらの配慮は必要ないのではないか。生徒の強心...

授業づくりに、「和泉支援授業スタンダード」を意識しましたか。
7件の回答



● 意識した
● やや意識した
● ほとんど意識しなかった
● 全く意識しなかった
● 普段と変わらず

授業スタンダードについては、令和5年度から校内に掲示をし、公開授業研究協議などでの取組みを進めてきた。様々な場面で授業スタンダードについての情報発信を続けてきたことで、肯定的評価（意識した+やや意識した+普段と変わらず）の割合は83.3%から85.3%と高い割合を維持している。また令和6年度の回答では「普段と変わらず」という回答が見られ、授業スタンダードが校内で当たり前ものとなりつつある様子がうかがえた。

●まとめ

ゼロからスタートした授業スタンダードづくりであったが、1年目の授業づくりプロジェクトを通して授業に大切なもの考える、2年目の

公開授業研究協議を通して授業スタンダード（案）を検証する、3年目の公開授業研究協議を通して『和泉支援授業スタンダード実践例集』を作成するということまで到達することができた。

ただ、授業スタンダードは当初考えたように作って終わりというものではない。普段から授業づくりの際にそれぞれの視点を振り返り、子どもたちの実態や授業のねらいに応じて、よりよい授業づくりのために活用していくものである。授業スタンダードの活用については今後も和泉支援学校として継続していきたい。

また授業スタンダードだけでなく、教科ごとの具体例も含めてまとめた『和泉支援授業スタンダード実践例集』を作成できたことは今後、新転任者などが授業づくりを考えていく際の大きな助けになるのではないと思われる。もちろん特別支援学校センター的機能の一環として地域校へ発信していく際の有効なツールにもなると思われる。今回の実践報告集にも掲載しているが、令和7年度の泉北ブロック合同相談会・公開研修会でも紹介予定である。

アンケート結果からの考察では、3年間の授業スタンダードづくりの取組みや他の研修会企画など研究部の取組みは、観点別学習状況の評価（指導と評価の一体化（関連性））やPDCAサイクルに基づく授業改善、キャリア教育やICT機器の活用に対する和泉支援学校教員への意識の変化に大きく寄与できた様子がうかがえる。これらの項目は学校経営計画にも記載されているものである。

最後に、授業スタンダードづくりはもちろん、公開授業のあり方や校内研修、教材教具データの整理など3年間で様々な内容に取り組んできたことは、研究部としても、和泉支援学校としても大きな経験と財産になった。今年度で授業スタンダードを中心にした取組みは一旦終わり、次年度以降は新しい研究目標に取り組むことになる。この3年間の経験を活かし、次年度以降も学校全体の意識向上に取り組めるよう、さらに邁進していきたい。